

# 白神ねぎ

- 長ねぎ栽培について
- ◎越冬早取り苗の管理ポイント
  - ・温度管理

いように、朝はハウスを開けてモヤを抜くこと。最低気温がマイナスと予想されない限り、トンネル被覆はしない。(日中も被覆すれば徒長の原因となります)

- ・水管理

培土が乾きにくくなっているため、灌水の間隔は培土の乾き具合をみて行います。灌水は日中に行い、温度が低下する夕方は避ける。

# 白神山うど

- 山うど栽培について
- ◎伏せ込み床の温度管理
  - ・2月下旬頃までは気温が上がらず、加温開始から収穫までの日数がかかってきますが、生長が遅いからといって無理に温度を上げることなく、適切な温度管理を行って下さい。(萌芽後は芽の位置の温度で15℃~17℃)

- ・一時的な極低温による凍障害防止のため、最低でも早朝5℃以上を保つよう保温資材を重ね、凍害を回避するようにして下さい。
- ◎ハウス内の温度管理
  - ・2月中旬以降は日が差す日も徐々に多くなっていくため、ハウス内の温度にも気を付けて下さい。(ハウス内温度15℃目安)
  - ・極端に高温となる日の日中は寒紗等で遮光し、焼けの防止に努めて下さい。

# スナップエンドウ

☆農業所得向上を目指し、  
田植えと夏野菜の間にピッタリな”スナップエンドウ”に取り組んでみませんか!?

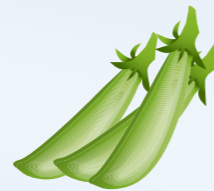
## 1. 作型の例

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハウス		○~○	△~△									
露地			○~○	△								
ハウス							○					
露地								○				

○播種 △定植 □収穫

## 2. 導入の際の注意点

- ◆連作を嫌うためできるだけ輪作、新しい圃場が良い。
- ◆排水の悪い場合は、明きょ及び高うねでの栽培を実施。
- ◆マルチ、灌水設備で安定した収益が可能。



## 3. 収益性

※5a(家族労働力2人での可能面積)当たりの期待所得

令和5年産のあきた白神(平均)

- 5a当たり収量……………298kg
- 5a当たり販売金額……………34万円
- 期待所得……………17万円(所得率50%)

☆技術向上により達成可能!! ☆  
令和5年産ベテラン生産者実績

- 5a当たり収量……………559kg
- 5a当たり販売金額……………66万円
- 期待所得……………33万円(所得率50%)

## 栽培とおすすめポイント

- ◆豆を十分太らせて、莢ごと食べる実エンドウで莢の肉質は柔らかく甘みが強く非常においしく、市場での要望も高い品目です。
- ◆ハウスの有効利用を検討または転作・輪作を検討している方におすすめします。
- ◆中山間高冷地での露地栽培に向いており、高い収益性が望めます。

## 【連絡先】

能代地区 (営農企画課 74-8345)      ニツ井地区 (ニツ井営農センター 73-5193)      藤里地区 (藤里営農センター 79-1644)

# 稲作・畑作

# 営農情報

## 次年度の技術対策

### (1) 土づくりによる気象変動に強い稲づくり

令和5年度は、天候の変動が激しく、このような気象条件下でも高品質・良食味米を安定的に生産するためには、透排水性の改良、耕深(根域)の確保、地力の維持・増強などの総合的な土づくりが重要となります。耕深を確保する、過度の代かきを避ける、有機質資材やケイ酸質肥料の施用等、登熟後半まで稲体の活力を維持できるような土づくりを目指しましょう。

また、使用する肥料の種類が多様化し、肥培管理もそれぞれ違ってきています。ほ場条件や肥料の特性を理解し、適切な肥培管理に努めましょう。

### (2) 基本技術励行による収量・品質の安定化

令和5年度は収量も少なく、品質については暑さによる乳白粒の増加や形質(充実度不足等)・被害粒(胴割れ粒等)も増加し、一等米比率が低下しました。毎年生育期間中も急激かつ極端な気象変動が起こっており、その影響を最小限にするには、基本技術をしっかりと確実に実施することが重要になります。

安定した収量・品質を確保するためには、健苗育成(活着良好な苗)、適切な田植え作業(時期、植込本数の確認、植付深の調整等)、生育ステージや気象条件に適応した水管理(浅水、深水、適期中干し、落水時期、カドミウム吸収抑制等)等の耕種管理を今一度見直しましょう。

### (3) いもち病対策

令和5年度はいもち病の発生もやや多く、一部で、苗の持ち込みによると見られる葉いもちが多発した圃場も見られました。種子消毒や育苗期の薬剤防除を確実に実施するとともに、稲わら・籾殻を育苗施設の近くや施設内に置かない、余り苗を早期に埋没処分する等、耕種防除も併せて実施しましょう。

### (4) 斑点米カメムシ類対策

令和5年度は、斑点米カメムシ類の加害による斑点米被害が少なくなりましたが、引き続き雑草管理と薬剤防除の合わせ技の適切な防除対策を実施しましょう。

#### 【雑草管理】

近年、主要種となっているアカスジカスミカメは、カヤツリグサ科雑草やノビエの穂に産卵するため、本田内及び畦畔のこれらの雑草管理を徹底した上で、薬剤防除と適切に組み合わせることが重要です。

#### ●農道・畦畔の草刈り

・6月上旬から稲が出穂する10~15日前までに数回行う。刈り込み軽減剤や代用剤を使うのもよい。

・8月は出穂期10日後頃の薬剤散布から7日以内に草刈りを行い、その後は稲の収穫2週間前まで草刈りは行わない。

#### ●水田内の雑草防除

・水田内の除草効果を高めるため、畦畔補修等の漏水対策、田面の均平を図り均一な水深を確保する、代かきから除草剤散布までの日数を空けすぎないなど、適切な管理を行う。

	6月		7月		8月		9月	
	上~下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	
本田防除					1回目防除 出穂期10日後頃	2回目防除 出穂期24日後頃		
農道畦畔	6月上旬 ← 草刈り →		稲出穂 15~10日前	草刈り 7日以内		収穫 2週間前 ← 草刈り →	収穫	
法面休耕田等	6月上旬 ← 草刈り →		稲出穂 15~10日前	草刈り 禁止		収穫 2週間前 ← 草刈り →	収穫	

カメムシ類に対する本田防除と雑草管理の体系

#### 【薬剤防除】

- ・出穂期10日後頃の防除(スタークルまたはアルバリン剤)を徹底する。
- ・牧草地・休耕田等の発生源が隣接している場合や、水田内にノビエ、カヤツリグサ科雑草の発生が認められる場合は、出穂期10日後頃と同24日後頃の2回防除を必ず実施する。
- ・薬剤抵抗性の発達を防止するため、2回目はキラップ剤を使用する。